

北陸鉄道グループ

乗合バス事業の概要

1. 企業概要

資本金 18億1,485万円 株主数 4,043名 (平成18年3月末日現在)
事業内容 バス・鉄道、レジャー・スポーツ、不動産等の事業
売上高 62億85百万円 (平成18年3月度)
内訳 バス事業 40億28百万円 (構成比64.1%)
鉄道事業 5億88百万円 (" 9.4%)
その他事業 16億68百万円 (" 26.5%)

連結状況 子会社19社

内訳 バス事業 10社
レジャー・サービス業 6社
建設業 2社
コンピューターソフト開発会社 1社

連結売上高 174億49百万円 (平成18年3月期)

主な内訳 バス鉄道業 121億75百万円 (構成比69.8%)
レジャー・サービス業 41億57百万円 (" 23.8%)
建設業 9億94百万円 (" 5.7%)

従業員数 1,380名 他に臨時・パート等 490名

主な内訳 バス・鉄道業 1,079名 他に臨時等 183名
レジャー・サービス業 240名 " 303名

2. 乗合バス輸送人員・旅客収入の推移

別表1、2をご覧ください。

3. バス事業分社化を軸とした改善

- | | | |
|---------------|--------------------------------|--------------|
| (1) 平成 2年 3月 | 奥能登門前地区8路線 | 能登中央バス(株)に譲渡 |
| (2) 平成 3年 11月 | 中能登七尾市東部地区5路線 | 七尾バス(株)に譲渡 |
| (3) 平成 5年 3月 | 中能登富来地区8路線 | 能登西部バス(株)に譲渡 |
| (4) 平成 6年 3月 | 南加賀山代地区7路線 | 加賀温泉バス(株)に譲渡 |
| (5) 平成 7年 3月 | 金沢市近郊 鶴来、白山麓地区
及び松任市周辺地区7路線 | 加賀白山バス(株)に譲渡 |

- | | | |
|----------------|--|-------------------------|
| (6) 平成 9年 7月 | 貸切バス事業の一部 | 北鉄金沢中央バス(株)に譲渡 |
| (7) 平成 11年 11月 | 奥能登地区4路線 | 奥能登観光開発(株)に譲渡 |
| (8) 平成 13年 3月 | 金沢地区を中心とした44路線 | ほくてつバス(株)他各社に譲渡 |
| (9) 平成 17年 4月 | 金沢～奥能登方面特急、定観7路線譲渡、のと鉄道(三セク)穴水～蛸島間の廃止に伴う代替バス運行開始 | 能登中央バス(株)
奥能登観光開発(株) |

4. 金沢オムニバスタウン

別添「金沢オムニバスタウンの推進」をご覧ください。

5. ICカードについて

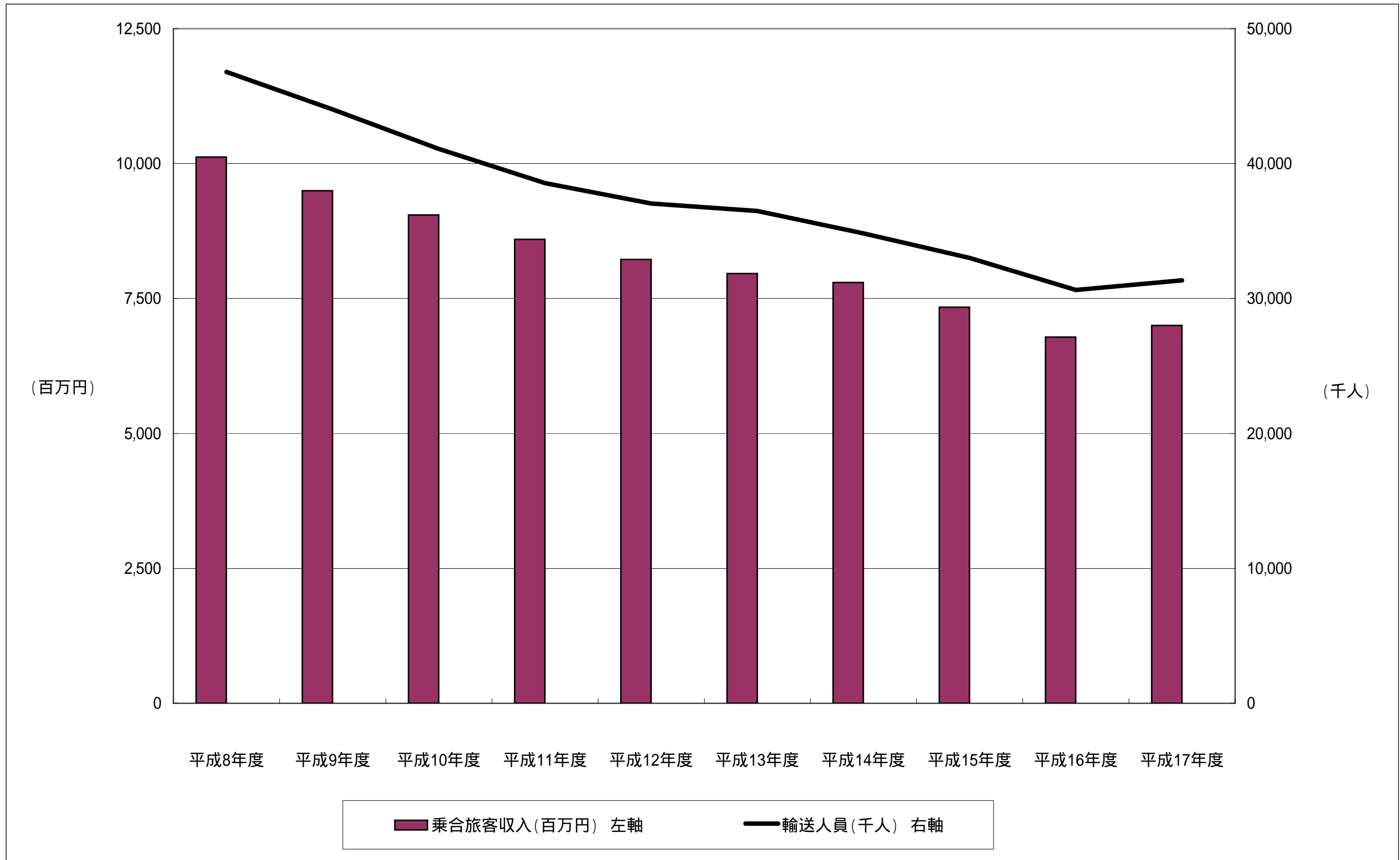
6. 「金沢バストリガー方式」実証実験

金沢大学角間キャンパス 旭町周辺間
路線バス100円運行を平成18年4月から1年間試行
目標乗車人員達成できれば次の1年間も継続。

7. 地方の「乗合バス」を残すために

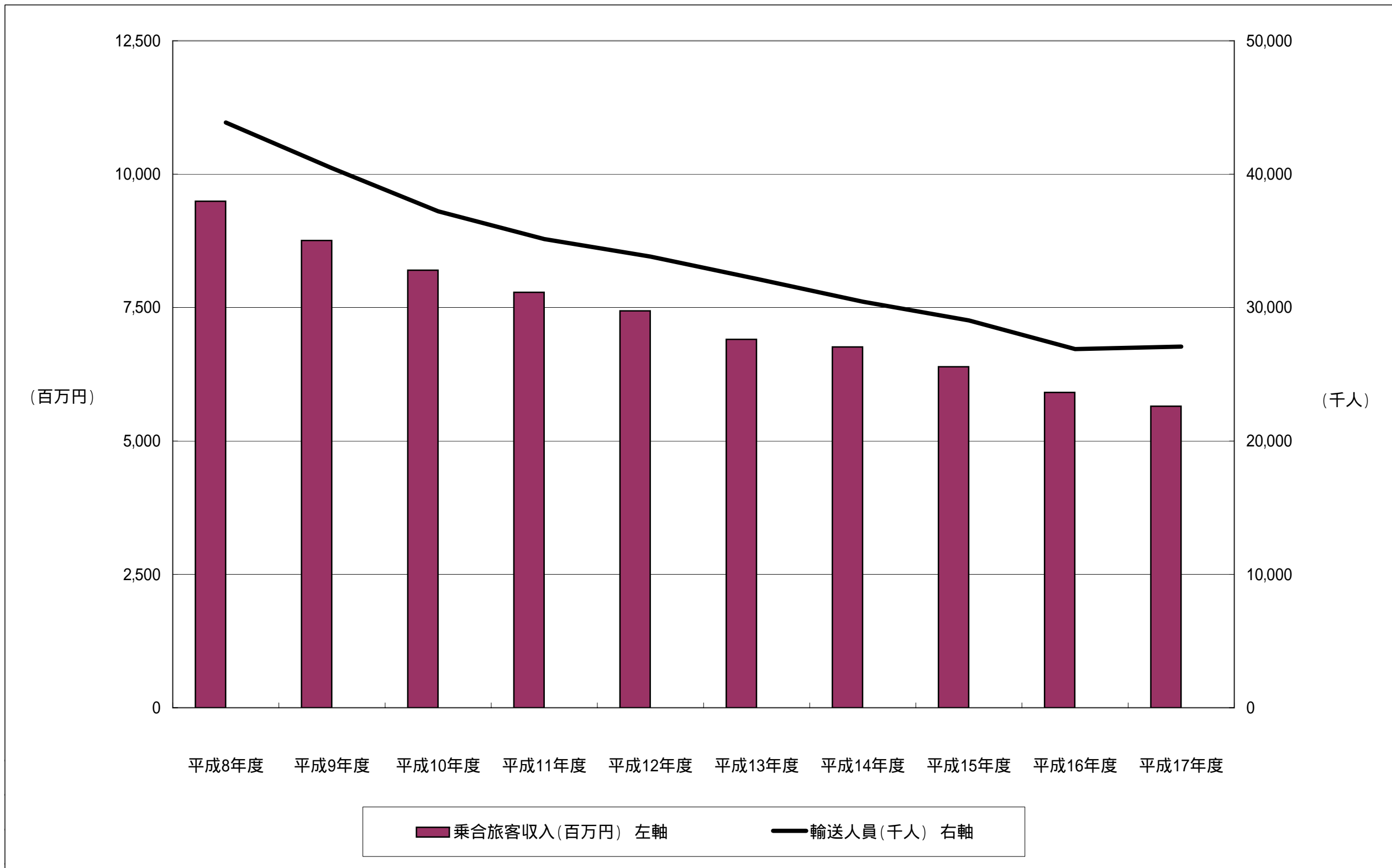
高齢者や通学の足としてだけでなく、省資源、環境保全のためにも、公共交通機関存続への理解と行動を地域全体で推進できるよう、多方面への訴えかけとご支援をお願いします。

北陸鉄道グループ乗合バス10年間の輸送人員・旅客収入の推移(石川県内9社合計)



	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成8年度比
輸送人員(千人)	46,786	44,009	41,079	38,548	37,044	36,487	34,829	33,010	30,629	31,348	67.0%
乗合旅客収入(百万円)	10,122	9,496	9,048	8,596	8,224	7,963	7,797	7,339	6,784	6,999	69.1%

北陸鉄道グループ乗合バス10年間の輸送人員・旅客収入の推移(金沢地区4社合計)



	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成8年度比
輸送人員(千人)	43,875	40,454	37,224	35,131	33,823	32,156	30,442	29,038	26,893	27,074	61.7%
乗合旅客収入(百万円)	9,493	8,758	8,201	7,788	7,440	6,905	6,763	6,390	5,909	5,651	59.5%

平成17年度から能登方面への特急バスを北陸鉄道から能登中央バス・奥能登観光開発に移管したため、減収となりました。

金沢オムニバスタウンの推進

人・まち・環境が共生するバス交通への転換

— 金沢オムニバスタウンのまちづくり —

人



香林坊バス停

まち



もてなしドーム

環境

共生



金沢がらうとバス
(CNG車両)

基本理念

世界都市金沢にふさわしい オムニバスタウンの創造を目指します

方向性

- 人に優しいバス交通環境の実現
- バス交通を公共交通の基軸とした都市交通体系の確立
- 市民意識をベースとした交通問題の解決

配慮事項

- 地球環境・都市環境の向上(環境に優しい交通の実現)
- 交通安全の維持(安全・安心な交通環境の実現)
- 新交通管理システム(UTMS)との連携

各計画の方向性

前期計画

(平成10～14年度)

バス交通活性化の
ための施策の複合化

- バスのやさしさアップ
- バスのスピードアップ
- バスによるまちづくり

中期計画

(平成15～19年度)

人・まち・環境が共生する
バス交通への転換

- バスを活用した魅力あるまちづくり
- バスを基軸とした交通体系の確立
- 人と環境にやさしいバスシステムの創出
- 市民意識高揚の推進

後期計画

(平成20～24年度)

バスを中心とする
まちづくりの実現

- 誰もが使いやすい都市交通の創出
- 公共交通を主軸とした都市の実現
- 市民主体による交通マネジメント

中期計画では、右頁の10施策に取り組み、後期計画へつなげていきます

前期計画(平成10~14年度)では13の施策を実施しました

バスのやさしさアップ

1 コミュニティバスの導入

此花、菊川、材木の3ルートを導入

2 通勤パーク&ライドの拡大

南部方面で約200台の駐輪場を確保

3 ノンステップバスの導入

7台/年を導入

4 サイクル&ライドの拡大

約2000台の駐輪場を整備

5 都市新バスシステムの拡充

バスロケーションシステムなどを整備



金沢ふらっとバス



ノンステップバス



サイクル&ライド駐輪場



バスロケーションシステム

バスのスピードアップ

6 交差点の改良

百坂北交差点などを改良

7 バス専用(優先)レーンの導入

藤江~中央市場口交差点などを導入

8 快速バスの拡大

1路線増



バス専用レーン

バスによるまちづくり

9 トランジットモールの導入検討

横安江町アーケード街を金沢ふらっとバス運行により実質トランジットモール化

10 多様なチケットシステムの導入

シルバー定期券、環境定期券を導入

11 買物配送サービスの導入検討

導入可能性基礎調査を実施

12 時差出勤・フレックスタイム制度等の導入促進

企業にPR、実態調査を実施

13 マイカー通勤自粛市民運動の推進

バス車輛へのペイントなどの公共交通利用促進キャンペーンを実施



シルバー定期券



マイカー通勤自粛市民運動イベント

中期計画(平成15年～19年度)では10の施策を

バスを活用した魅力あるまちづくり

1 ICカードの多機能化による利便性・魅力の向上

金沢市においても、平成16年12月からバスICカードシステムが導入されました。今後は、ICカードの多機能性に着目し、バス利用のみならず、商業分野との連携を検討し、複合的にバスの利便性を高めます。



バスICカード

2 多様なバス料金システムの検討

乗継割引の拡充、オフピーク時のバス料金の柔軟な設定など、多様なバス料金システムの導入を検討し、バス利用者の負担軽減に努め、新たな利用者の確保につなげます。

3 商店街や地元住民との連携による金沢ふらっとバスの利用促進

金沢ふらっとバスルート沿線の商店街や地元住民との連携によって、更なる利用促進を図り、金沢ふらっとバスの利用者及び商店街等への来街者の増加につなげます。



ふらっとバス 材木ルート

バスを基軸とした交通体系の確立

4 通勤パーク&ライドシステム(Kパーク)の拡充

まちなか周辺の中小規模駐車場におけるKパークを検討します。

また、これまでの南部・北部地区に加え、西武・東部地区においてもKパークの拡大を図り、利用者の増加につなげます。



パーク&ライドシステム

5 バス走行環境の改善

バス専用レーンの導入に合わせて公共交通優先システム(PTPS)装置の導入や交差点改良など、バスの定時性確保、速達性の向上に努めます。



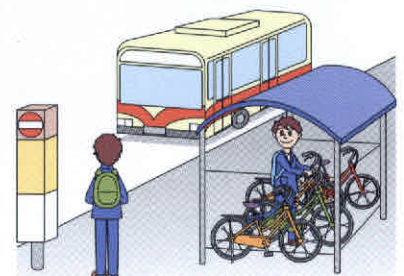
バス専用レーン

6 駐輪場整備によるサイクル&ライドの拡大

駐輪場の整備を行うことにより、サイクル&ライドを拡大し、バスへの乗り換えを促進します。

7 路線網のあり方についての検討

バス路線網のあり方について調査、検討を行い、新しい都市構造に対応した効率的な公共交通サービスを目指します。



サイクル&ライド

人と環境にやさしいバスシステムの創出

8 人と環境にやさしいバス車輛の導入、バス停のバリアフリー化

わかりやすいバス路線の案内方法の検討、誰もが利用しやすいノンステップバス車輛やアイドリングストップ機能付車輛等への切り替え、バス停のバリアフリー化を進め、人と環境にやさしいバスシステムを創出します。



ノンステップバス

市民意識高揚の推進

9 公共交通活性化に向けた市民意識の高揚

通勤時におけるマイカーから公共交通への転換を図るとともに、誰もが快適にまちに住み続けることができるよう、公共交通への利用転換を進めるキャンペーン等を実施し、バス活性化に向けた市民意識の高揚を図ります。



金沢オムニバスサミット

10 住民協働型のバス交通のあり方検討

郊外における地区住民や地域内の施設利用者等の足を確保するため、住民との協働によるバスの運行システムの研究を行うことにより、郊外における今後のバス交通のあり方を検討します。



オムニバスタウンとは？

オムニバスタウンとは、「人・まち・環境にやさしい」というバスの社会的意義を最大限に発揮することによって、快適な交通・生活の実現を目指すまちをいいます。

オムニバス(Omnibus)とは？

オムニバス(Omnibus)とは、乗合バスの語源で、もともとは「どのような役にでも立つ」という意味を持つ言葉で、乗合バスの原型となるフランスの乗合馬車の発着所の雑貨屋の看板に、たまたま“Omnibus”と書かれていたことにちなむものです。



●オムニバスタウン推進の経緯

平成9年度

平成10年 3月 金沢オムニバスタウン計画策定協議会の設置

平成10年度

平成10年11月 オムニバスタウン指定申請書の提出

平成11年 2月 オムニバスタウンの指定(浜松市に次いで、松江市と並び全国2番目の指定)

3月 金沢オムニバスタウン推進協議会を設置し、オムニバスタウン事業を推進

平成10～15年度

オムニバスタウン事業を実施

平成16年度

平成17年 2月 新金沢市総合交通計画実施推進協議会にオムニバスタウン推進部会を設置
(金沢オムニバスタウン推進協議会を改編)

お問い合わせ

金沢市交通政策課

〒920-8577 金沢市広坂1-1-1 TEL.076-220-2038 FAX.076-220-2048
<http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/koutsuu/> E-mail:koutsuu@city.kanazawa.ishikawa.jp